

社会福祉と社会開発の接近への試み  
～ 1960年代における議論の再検討～

倉持香苗

日本福祉大学大学院福祉社会開発研究科  
社会福祉学専攻博士課程

< 要旨 >

本研究は、社会福祉において社会開発に着目された1960年代の「社会福祉と社会開発」に関する議論を整理しながら、社会福祉において社会開発に着目された経緯と、その議論が今日の社会福祉に与えた影響を検討しながら、社会開発と社会福祉の接近を試みるものである。

1960年代当時の議論については文献研究を中心におこない、当時議論を展開していた人物にもインタビューを実施しながら整理している。その結果、コミュニティ・オーガニゼーションとコミュニティ・デベロプメントについて、本質的に異なることがないとする見解や、究極的な目的は同じであるが異なるとする見解などに分かれるなど、社会開発をめぐる当時の議論が活発におこなわれていたことが明らかになった。また、当時は社会開発とは何かという点が深められないまま議論されていたことも明らかになった。

しかし、その後、社会福祉における社会開発に関する議論はほとんど見受けられなくなってしまう。これに関する分析は、当時議論に関わっていた複数の人物にインタビューを実施する予定であるが、現在調査分析中であるため、本論では、当時の議論を文献から整理している。

キーワード：社会福祉、社会開発、1960年代